

東南アジアの栽培漁業に関するシンポジウム

柳 哲雄

SEAFDEC (SouthEast Asian Fisheries Development Center) による上記シンポジウムが 2015 年 7 月 27-29 日、タイ・パタヤの A-One ホテルで開催された。このシンポジウムはマングローブ・藻場・サンゴ礁など豊かな沿岸海洋生息場に恵まれた東南アジア沿岸海域における近年の漁業資源減少の原因を明らかにして、資源回復を行うにはどのような対策が適切かを議論するために開催された。7/27 (月) は SEAFDEC 事務局長の挨拶の後、福山大学の伏見教授から「栽培漁業の効果評価」という基調講演が行われ、SEAFDEC の Theparoonrat 局長から今回のシンポジウムのセッション構成の説明が行われた。

続いて行われたセッション 1 「漁礁整備と栽培漁業」では、Siriluksophon 博士 (SEAFDEC 事務長) から東南アジア各国における現状説明が行われた後、Chokesangaun 氏 (SEAFDEC) から現在の漁礁の問題点レビュー、Zainuddin 氏 (マレーシア) と Awaiwanont 博士 (タイ) からマレーシアとタイにおける漁礁設置の成功例に関する報告が行われた。午後は Theparoonrat (SEAFDEC) からタイ・ラヨン近郊における漁礁を用いた栽培漁業の推進、明田博士 (水工研) から日本の漁礁開発の歴史、に関する報告が行われた。

続いてセッション 2 「水産保護区と栽培漁業」では、Chanthana 氏 (カンボジア) から水産保護区設定による赤貝資源管理、Manap 氏 (マレーシア) からサラワクにおけるクルマエビとジョホールにおけるロブスター資源保護のための水産保護区設定、に関する報告があった。さらに、Barut 氏 (フィリピン) からフィリピンにおける水産保護区設定に関わる施策、Saikleng 氏 (タイ) からタイランド湾におけるサバの水産保護区域・期間の設定方法、に関する報告があった。

7/28 (火) 午前は、セッション 2 の続きで、Dzung 氏 (ベトナム) から栽培漁業に対する政府の取り組み、Siriraksophon 氏 (SEAFDEC) から水産保護区に関する今後の SEAFDEC の取り組み方針、に関する報告が行われた。

続いてセッション 3 「海洋生物の生息場修復」では、まず柳がこのセッションの狙いを述べ、続いて、Sopha 氏 (カンボジア) から地元住民参加の生息場修復活動、Phomsouvanh 氏 (ラオス) からラオスの内水面における生息場修復と水産資源管理、Kywe 氏 (ミャンマー) から内水面生息場修復・管理活動、Agung 氏 (インドネシア) からインドネシア沿岸海域の 30% を水産保護区にするための生息場管理活動、Palma 氏 (フィリピン) からフィリピン内水面の生息場修復と漁業活動、Manajit 氏 (SEAFDEC) からタイ・クラビ湾におけるアマモ場修復活動、に関する報告があり、最後に柳から瀬戸内海・日生における漁民によるア

マモ場修復活動と漁獲量の回復過程を紹介し、Satoumi 概念が海洋生物の生息場修復に有効であることを紹介した。

7/28（火）の最後に漁礁設置・水産保護区設定を含む海洋生物生息場保全と栽培漁業の関係に関する今後の効果的な戦略と具体的な方法に関する総合討論が行われた。まず、漁礁設置の正負の影響明示（漁礁を設置することで、流れと構造物の相互作用により濁度が増加して、基礎生産力が低下するという負の影響もある）と費用・効果評価をどう行えばよいのかが議論された。続いて、水産保護区の設定に関して保護対象種の産卵・生育場所と時期の特定に関する正確な科学的情報と地元漁民の協力なしには有効な水産保護区の設定・維持は不可能であるということが了解された後、東南アジアのような沿岸海域では国境を越える回遊魚が多いので、保護対象種の生活史解明のためには国際的な海洋科学協力体制整備が不可欠だということが確認された。生息場修復に関しては修復のための技術的な問題と地元住民の協力という二つの面で今後のさらなる研究・努力が必要だということが確認された。柳は漁礁設置・水産保護区設定・生息場修復を統合した事業を行うことが沿岸海域の水産資源回復に有効であることを指摘した。これらの発表と議論を元に SEAFDEC は今後 5 年間の活動方針を決めるということである。

7/29（水）は放流・養殖魚種の種苗生産・標識技術に関する諸報告が行われたが、筆者は 7/30（木）に日本で予定されていた会議に出席するために帰国して、シンポジウムには参加できなかった。このシンポジウムの概要は SEAFDEC の HP に紹介されている。